

第298号

令和4年10月発行

発行人 福田進太郎
 霜仁会事務局 TEL:0836-22-2029
 FAX:0836-31-7586
 E-mail:jimu@soujinkai.jp
 HP:http://soujinkai.jp/
 印刷所 瞬報社オフリン印刷(株)

山口大学医学部

霜仁会会報

令和4年度山口大学医学部

関連病院長協議会・総会

令和4年7月10日(日) 関連病院長協議会・総会お
 ANAクラウンプラザホテル よび医学部臨床系教授との
 ル字部「国際会議場」にお 意見交換会がコロナ禍の影
 響で3年ぶりの開催となっ



た。第17回本会総会の出席者は、57関連病院中43病院長、関連病院事業管理者・理事長5名、霜仁会会長および担当理事、オブザーバーとして、山口県健康福祉部・石丸泰隆審議監、医療政策課・土屋佳彦課長、大道具芽主査、および霜仁会理事・事務局長が同席した。

【総会】
 武藤正彦会長挨拶…コロナ禍のため2年間開催ができなかった本会が、なんとか対面開催となつて有意義な会とした。医療界を取り巻く環境はますます厳しく、安定的で持続可能な地域医療提供体制の創出には、大学・医療機関・行政の効果的連携が求められている。具体的には、医師派遣体制、時限が迫っている医師の働き方改革(タスクシフト、時間外勤務問題、日当直業務運営)については、意識改革、研究活動への影響もふくめて検討が急がれる。これらの課題について協議して頂きたい。

報告事項として、令和3年度会計収支報告・監査報告があり、幹事会(令和4年4月27日MC開催)報告では、2名の新幹事・竹中智昭病院長(光市立光総合病院)、西崎隆文病院長(宇部興産中央病院)の紹介と、空席であった副会長に沼文隆病院長(徳山中央病院)、会計監査には西崎隆文病院長が就任され、協議内容の検討があったことが述べられた。次いで本会に出席の5名の新病院長の紹介・挨拶があった。

協議事項検討…行政側から山口県健康福祉部医療政策課の土屋課長より、医師確保対策に関して、現状と課題、県としての取り組み、地域医療構想、医師の働き方改革についての解説があり、医学修学費との現状、次年度から県地域枠が減員となること、今後県内の少子高齢化・人口減少がすすむことで、深刻化する県内医師の高齢化など、医療環境も厳しい状況にあるなかで、さらに医師の働き方改革が迫っており、厳しさが増す事が再認識された。医療人育成センター教授の黒川典枝教授からは、山口県内研修医および山口大学専門研修の現状報告と説明があり、県内病院の研修医採用数の推移に变化はないが、本年度の大学の入局者数において、外科学系でやや増加した反面、内科の減少が懸念され、その一因として、内科専門医試験のハードルが高いことに関連があるかもしれないとの指摘があった。次いで、協議事項として医師の働き方改革を中心に検討され、宿日直問題、時間外労働の上限規制など、まだ解決できていない問題が多く、許認可や解釈に関して、情報が錯綜しているなかで、今後は正確な情報収集・発信がのぞまれることと、さらにこの制度改革の影響として、特に若手医師確保がさらに難しくなる可能性があり、医師確保問題が、病院再編や調整会議、地域医療構想等へ影響することなどについて意見が述べられた。

【医学部臨床系教授との意見交換会】
 杉野法広医学部附属病院長、篠田晃医学部長、当日参加の8名の臨床系教授から御挨拶があり、大学の入局者数はここ数年変化なく60名前後であり、医師不足は深刻化しており何とか70名を目標として頑張りたい。大学としても、働き方改革等に対応すべく検討をおこなっている。大学病院はB水準となるが、年1860時間超えの医師が数名いる。コロナ禍で学

理事會 報告

第51回霜仁会学術振興賞

本賞

「リアノジン受容体へのカルモジュリンの結合はカテコラミン誘発多形性心室頻拍の抑制に必須である」

山口大学大学院医学系研究科 器官病態内科学

中村 吉秀

(島根大学医学部 平24年卒)



山口大学大学院医学系研究科
器官病態内科学の中村
吉秀と申します。この度は
霜仁会学術振興賞本賞を賜
り大変光栄に存じます。ご
選考いただきました委員の
先生方に心より御礼申し上
げます。私は平成24年に島
根大学を卒業後出身地の山
口県に戻り現在の第二内科
で大学院博士課程を過ごし
ました。受賞論文はこの時
に行った研究です。

イン間の連関障害とそれに
続くカルモジュリンの解離
がチャネルを不安定化しカ
ルシウム漏出を起こすこと
が明らかにされてきました
が、本研究ではリアノジン
受容体のカルモジュリン親
和性を高めることでCPVT
を遺伝的に抑制できるかの
検討を行いました。結果、
CPVTモデルマウスではカ
テコラミン投与で容易に心
室頻拍が誘発されました
が、カルモジュリン高親和
性マウスと交配させること
で心室頻拍の誘発は完全に
抑制されました。また単離
心筋細胞においてもCPVT
モデルマウスでみられるカ
ルシウム漏出やリアノジン
受容体からのカルモジュリ
ンの解離はカルモジュリン
高親和性マウスとの交配で
抑制されており、リアノジ

ン受容体からのカルシウム
漏出の抑制にカルモジュリ
ンが必須であることが証明
されました。本研究が不整
脈や心不全の新たな治療法
につながることを期待して
おります。

本研究は基礎研究となり
ます。結果が直接臨床現場
や治療に応用できるわけ
はないですが、新規の治療
法の開発には疾患の機序の
解明が必須であり基礎研究
だからこそできる役割があ
ると確信しております。現
在も研究継続の機会をいた
だけており今回の受賞はそ
のモチベーションとなりま
した。最後になりましたが、
本研究の遂行および論文
作成に際し、ご指導を賜
りました矢野雅文先生、ま
た指導教官として終始ご指
導いただいた山本健先生に
感謝申し上げます。霜仁会
の先生方には今後ともご指
導ご鞭撻を賜りますようよ
ろしくお願い致します。

第3回理事會

令和4年6月17日(金)

19時より医学交流会館3階
会議室において、22名の出
席のもと開催された。

【報告事項】

1. 5月29日(日)

谷澤幸生新学長就任記念
式典・祝賀会

2. 5月30日(月)

第31回山口大学同窓会理
事會

3. 6月13日(月)

検査センター運営委員会

4. 国際奨学金免除申請に
ついて

高次脳機能病態学講座の
国際奨学生Dr.Hiroの
奨学金返還免除が承認さ
れた旨報告された。

【審議事項】

1. 山口県臨床整形外科医
會が主催する市民講座
「骨と関節の日」への助
成が承認された。

2. 検査センターの機器更
新(密閉式自動固定包埋
装置)について、承認さ
れた。

3. その他

・ 関連病院長協議會総
會、四国支部會、岡山支

部會及び第8回山口大学
連合同窓會の出席予定者
を確認した。

第4回理事會

令和4年7月15日(金)

19時より医学交流会館3階
会議室において、25名の出
席のもと開催された。

【報告事項】

1. 7月10日(日)

山口大学医学部関連病院
長協議會總會

2. 7月15日(金)

検査センター運営委員会

3. その他

・ 泌尿器科学講座教授候
補者に白石晃司先生(泌
尿器科学講座准教授)が
選出された。

【審議事項】

1. 検査センターの勤務体
制及び検査業務の見直し
について説明があり、承
認された。

2. その他

・ 福岡支部總會の出席予
定者を確認した。

これまでの研究で、カテ
コラミン誘発多形性心室頻
拍、CPVTのモデルマウス
を使用し、筋小胞体膜上に
あるリアノジン受容体内の
点突然変異がチャネルを感
作しN末端および中央ドメ



生の医学実習等が十分にお
こなえてないが、医学教育
として対面教育が基本であ
ることを痛感している。D
Xの促進もすすめており、
デジタルイメージングのコ
ンテンツも増え、外科志望
の医学生増加に貢献して
いるようだ。外科教育の強
化のため、解剖学実習での
縫合手技教育に続いて、外
科診療科との協力のもと早
期外科研修ユニットが設定
され、また、CCTS(ご遺
体活用臨床外科研修)も活
発に活用されており好評で
ある。診療科によつては、
入局者が数年いない科もあ
り、何とか高い志をもった
研修志望者へのアピールを
続けたい。推薦枠、地域枠
が今後減少した場合への対
応も考えねばならない。医
療現場では、実働部隊(30
代から40代の医師)が不足
しており深刻な事態になっ
ている。などの話題提供が
あった。

その後意見交換がおこな
われ、働き方改革及び県内
への医師確保についての意
見が述べられ、會を終了し
た。懇親會は開催されなか
った。来年は、ポストコロ
ナの時代に、懇親會も開
催されることを願って閉會
となった。(城戸研二)

奨励賞

「Mi-223欠損はS1pr1を標的としてループス腎炎の増悪をきたす」

川崎医科大学 リウマチ・膠原病学



浅野澄恵

(旧姓 平松) (平23年卒)

この度は奨励賞を賜り、大変光栄に存じます。私は平成23年に山口大学医学部を卒業し、初期研修後、平成25年に故郷の岡山に戻り、当時榎野博史教授の主任として岡山大学腎臓・免疫・内分泌代謝内科学教室に入局いたしました。同大学病院および京都大学医学部附属病院にてリウマチ膠原病学の臨床を学ばせて頂いたのち、岡山大学大学院に進学し、全身性ループスエリテマトーデス(SLE)のエピゲノム制御に関して研究を開始しました。本研究は大学院在籍時より取り組んでおりましたSLEにおけるmiRNA (miRNA) 223の病態への関与を明らかにし、SLE治療としての

遺伝子を標的とするMi-223の発現亢進を見いだしました。さらに、Mi-223を介したS1pr1発現制御による病態関与を解明するため、Mi-223欠損SLEマウス

(Mi-223^{-/-}Fas^{loxP/loxP})を作成し、表現型解析を行ったところ、Mi-223^{-/-}Fas^{loxP/loxP}は、Mi-223^{-/-}Fas^{loxP/loxP}に比較し、脾臓S1pr1+CD4⁺T細胞が有意に増加し、その糸球体への浸潤も有意に認められ、尿蛋白および糸球体スコアの増悪傾向も認め

ました。以上の結果から、Mi-223欠損は標的遺伝子であるS1pr1の発現を上昇させ、リンパ球の炎症臓器への浸潤を促進することでループス腎炎を悪化させたと考えられました。

最後にになりましたが、ご指導を賜りました岡山大学の和田淳教授はじめ多くの先生方に厚く御礼申し上げます。今後とも指導ご鞭撻を何卒宜しくお願い申し上げます。



藤生賞

「ヒト子宮内膜間質細胞の脱落膜化における遺伝子発現調節機構の解明」

山口大学大学院医学系研究科 産婦人科学講座



田村功

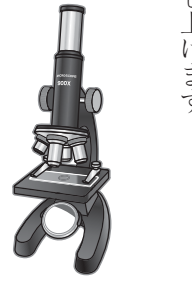
(平16年卒)

この度は栄養ある藤生賞を賜り、大変光栄に存じます。私は平成16年に山口大学医学部を卒業後、杉野法広教授が主宰されておられる産科婦人科学講座に入局致しました。私が研究を行っております脱落膜化という現象は、プロゲステロンの影響により子宮内膜間質細胞が劇的に変化する現象であり、妊娠・着床の成立に必要不可欠であります。脱落膜化における遺伝子発現調節はこれまで、主に転写因子による制御のみに着目され研究が行われてきました。そこで、私は「転写因子による調節」だけでなく「epigeneticsによる調節」の視点からの解明を行うてまいりました。特に、ゲノムワイドな視点から脱

落膜化におけるepigenetics調節機構の解明に着手し、トランスクリプトーム解析とゲノムワイドヒストン修飾解析を行い、これらを統合することで、脱落膜化におけるエピゲノム情報を世界に先駆けて報告しました。2014年から2年間、米国SALK研究所に留学させて頂き、J.C.Belmonte教授が主宰する研究室に所属しました。J.C.Belmonte教授はES細胞を用いた再生医療の第一人者であり、研究室には常に20-30名もの世界から集まった研究者が所属しているビッグラボでした。Nature&Scienceなどのトップジャーナルを年に数本もリリースする研究室であり、とても良い刺激を受けることができました。

留学中は子宮内膜の研究からは離れ、ES細胞を用いた腎臓再生や三次元臓器の作製、ゲノム編集といった

研究に携わりました。帰国後は再び脱落膜化に関する研究を再開し、留学中に学んだゲノム編集を活用することで脱落膜化における新規enhancer領域の同定を行いました。また、腎臓の発生に必須なWilms tumor 1遺伝子が脱落膜化では重要な役割を果たしていることも明らかにしました。留学中の腎臓研究やゲノム編集の手法取得があったからこそ成し遂げることができた研究成果だと感じております。また、多くの基礎講座の先生方にもご支援・ご教授を頂くことで研究を進めることができっております。本賞受賞を胸に、今後とも精進して参りたいと思っております。



第41回霜仁会社会活動部門賞

「産婦人科の発展と緩和医療の確立」

JCHO徳山中央病院



伊東 武久 (昭45年卒)

この度は名誉ある霜仁会社会活動部門賞を賜り、大変嬉しく思っております。

世界で初めて腹腔鏡下胆嚢切除が実施されたのは1987年でした。私は、その10年前から腹腔鏡手術を産婦人科領域で積極的に行って、GIFT（配偶子【卵子と精子】卵管内移植）→腹腔鏡下子宮外妊娠手術→腹腔鏡下卵巣嚢腫手術→腹腔鏡下子宮内膜症手術→腹腔鏡下子宮筋腫核出手術と拡大していききました（いずれの手術も県内初）。1993年には子宮筋腫の腹腔鏡補助下腔式子宮全摘術が始まり、おなかを大きく切らないで手術ができること好評で年間100〜150例の腹腔鏡下手術をしました。また子宮筋腫の腔式子宮全摘術も積極的に行い、一

は分娩数が急激に増え、2012年の産婦人科引退までに6000例の分娩に立ち会いました。その間頸管縫縮術など未熟児出産の防止に尽力して参りました。その後、2008年より緩和医療を0から立ち上げて花と野菜の美しくて広いテラスを持つ緩和ケア病棟を作り、外来や緩和ケアチームで院内の緩和医療を充実させ、山口県東部の各訪問看護ステーションと連携して訪問診療を行って在宅看取りを推進してまいりました。その甲斐あって緩和医療を立ち上げてから15年で2500人もの人を看取りました。

一般的な腔式子宮全摘術に加え、分割子宮全摘術を行い、1kgの子宮筋腫も経腔的に摘出していたので1982年には年間5例だった腔式子宮全摘術も1993年には年間100例に増加しました。腔式子宮全摘術は子宮を体外に取り出すの

に一番合理的な方法で、余りな切開、切断を一切しない理想的な手術法です。また、徳山中央病院赴任直後より、体外受精に取り組みました。まだその頃は受精卵の培養液が市販化されてなく、院内で超純水から作成していました。そして世界初の体外受精児誕生の7年後に山口県内で初めて体外受精胚移植、GIFTを行

社会活動部門賞

「先天性・遺伝性疾患（先天異常症候群）における包括的支援活動」

埼玉県立小児医療センター 遺伝科



大橋 博文 (昭60年卒)

この度は、社会活動部門賞を賜り大変光栄に存じます。小児科診療における重要な対象疾患領域の一つに

先天異常症候群があります。先天異常症候群は複数の臓器や器官の合併症ならびに成長や発達の障害を併せ持ち、根本治療は難しく、その殆どが（超）希少疾患です。そのため、診断を受けた家族は情報が少なくかつ同じ疾患をもつ人と知り合うこともできない状態があり、その不安と孤独は深刻です。私は1985年に山口大学小児科に入局し小児科医としての基礎的指導を受けた後、1991年に埼玉県立小児医療センターに赴任しました。そこでダウン症候群をはじめとして様々な先天異常症候群の診

療に携わる中で、患児・家族の包括的支援の一つと位置付けて、各々の疾患ごとの集団外来（情報提供と家族交流のグループ外来）の開催に今まで継続して取り組んで参りました。

(1)ダウン症候群総合支援外来（略称DK外来）。ダウン症候群の診断後にまだ乳幼児である児と家族を対象とし、多職種が協力して、毎月1回のペースで1年間（現在は半年間）のプログラムを行う集団外来です。ご両親の不安が特に大きい診断後早期の時期にすみやかな情報提供と家族交流の機会の提供を目指すものです。さらにこの外来を接点として埼玉県内の各地域のダウン症家族会と連携し、毎年1度の連絡会議も16年

続けています。(2)先天異常症候群の集団外来。集団外来をより（超）希少であるダウン症候群以外の先天異

常症候群へ展開しています。毎年の定例開催4疾患、複数回開催20疾患、1回のみ開催24疾患、と疾患によって開催頻度に差はありますが、これまでの22年間で48疾患、延べ214回の外来を開催しています。

先天異常症候群の包括的ケアには医療以外の多くの部門や社会との幅広い連携が求められます。小児医療を核として、これらの関連部門がつながる場としての「希少疾患情報・支援センター」といった機能を果たして、今までの経験を踏まえて努力していきたいと考えています。最後になりましたが山口大学医学部小児科教授の長谷川先生、山口大学小児科同門会の内田会長ならびに同門会会員の諸先生に心から感謝いたします。霜仁会の諸先生には今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

この賞を頂くにあたり、私と一緒に同じ目標に向かって努力してくれた仲間、そして私を理解して頂いた方々に深甚なる感謝の意を表します。



就任挨拶

教授就任のご挨拶

新任教授

山口大学大学院医学系研究科
泌尿器科学講座

教授 白石晃司



令和4年8月1日付けで、山口大学大学院医学系研究科泌尿器科学講座教授を拜命致しました白石晃司と申します。新任にあたり霜仁会の諸先生方に謹んでご挨拶申し上げます。

私は山口県立萩高等学校を平成元年に卒業し、山口大学医学部に入学しました。中学高校と続けてきた卓球を継続し、医学部の大会での優勝および5年次には実業団選手と共に中国選手権代表を経験いたしました。未解明な点が山積みの精子形成に興味を抱き、平成7年に卒業後、故内藤克輔教授が主宰されていた山口大学泌尿器科学教室に入局いたしました。

的な変革を辿ってまいりました。松山豪泰教授のご指導の下、私は県内でいち早く腹腔鏡技術認定医を取得し、鏡視下での適切な剥離層の認識による繊細な出血の少ない手術の虜になりました。今後は癌治療においてロボット手術を中心に、患者さまのQOL向上を目指す。本邦の内視鏡手術を牽引していけるよう邁進して参ります。都市部の大学と異なり、私たちには腎臓病全般、小児泌尿器科、女性泌尿器科など非常に専門性の高い領域まで広くカバーする責務があります。教員が一丸となり、オールラウンドかつハイレベルな診療が提供できるよう、リーダーシップを発揮していく所存でございます。研究および臨床面での魅力ある診療科を創出し、私が重視している国際的な活動などにより、学生の将来へのモチベーションを賦活し、山口県内の若手医師の定着につながるよう、卒前および卒後教育に尽力して参ります。

最後に参りますが、霜仁会の先生方には、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。この四半世紀で、泌尿器科手術は開腹から腹腔鏡、そしてロボット手術へと劇

教授就任のご挨拶

新任教授

産業医科大学 産業生態科学研究所
快適環境部門 職業性腫瘍学

教授 藤澤浩一



令和4年4月1日付で産業医科大学 産業生態科学研究所 職業性腫瘍学講座教授を拜命いたしました藤澤浩一と申します。就任にあたり霜仁会の先生方に謹んでご挨拶を申し上げます。

私は下関出身で山口県立下関西高等学校を卒業し、平成10年に山口大学医学部に入学しました。分子生物学に興味を持っていたことから入学後すぐにアデニル酸キナーゼの研究を行っておられた中澤淳教授主催の生化学第二講座で当時助教授でした野間隆文先生に直接ご指導を賜りながらエネルギー代謝の研究を行いました。卒業後は平成16年に山口大学を卒業後当時始まったばかりの卒後研修を2年間山口大学医学部附属病院で行いました。その後、

野間隆文教授主宰の徳島大学歯学部分子医化学教室の助手として再びアデニル酸キナーゼの研究を行いました。平成18年に坂井田功教授主宰の山口大学消化器内科学に入局し、寺井崇二先生(現 新潟大学教授)にご指導いただき、小型魚類を用いた肝臓がんの研究を行い学位取得しました。平成22年からは修復医学教育研究センター、肝臓再生基礎学で高見太郎先生(現山口大学教授)のご指導の下で臨床研究や基礎研究に携わり、間葉系幹細胞の品質評価やメダカ脂肪肝モデルを用いた研究を行ってきました。消化器内科学講座での16年間は多くの先生方のご指導を賜ることができました。また多くの研究費を自由に使わせていただき非常に充実した研究生活でした。

同定、新規化学物質の導入や開発にあたっての発がんリスク評価法検討を目的に1993年に新設されました。初代教授の葛西宏先生は酸化ストレスマーカー、特に8OHdGに着目されご研究を行ってこられました。その後2代目教授として河井一明先生が酸化ストレス研究をさらに大きく展開されました。この度3代目教授を拜命し、その重責に身の引き締まる思いです。今後がんの細胞内代謝に着目した研究をベースに、さらに酸化ストレスの研究を進めたいと考えております。



学内報告

キャリアナビゲーション

『山大的開催』

山口大学医学部附属病院
医療人育成センター研修
医・専門医支援部門では、
令和4年6月16日(木)、
17日(金)に山口大学医学
部附属病院オーデイトリア
ムにおいて進路説明会「キ
ャリアナビゲーション@
山大」を開催しました。

本事業は、山口大学で臨
床研修や専門研修を行う魅
力を医学生や研修医の皆さ
んに伝え、将来の山口県の
地域医療を支える若手医師
をひとりでも多く定着につ
なげること、また、参加者
にとつて進路選択の契機や
生涯のキャリア形成の足が
かりとなることを目的に開
催しています。新型コロナウイルス
の流行によ
り、令和2年度と令和3年
度はオンラインでの開催と
なりましたが、11年目とな
る本年度は、感染対策を十
分に行った上で、久しぶり
にリアルイベントとして開
催することができました。

おかげをもちまして2日間
で延べ64名の参加がありま
した。

各診療科のブースでは、
各科の研究の特徴や研修教
育体制、専門医資格の取得
を含めたキャリアサポート
体制等について、指導医の
先生が分かりやすく丁寧に
説明され、様々な情報交換
があり、会場は至る所活気
にあふれていました。

医療人育成センターブ
ースでは当院プログラム所属
の研修医と学生が自由に話
せる場が用意され、研修に
関する様々な疑問や研修医
生活の実態などについて話
し、非常に有意義な時間と
なりました。

参加者アンケートでは、
「丁寧に説明を受けること
ができ、診療科への関心が
大変深まりました。」「様々
な科の特徴を知る良い機会
でした。」「診療科の雰囲気
を体感できて、非常に楽し
く、有意義でした。」など
の声をたくさんいただきました。

ご多用の折、ご出展いた
だきました各診療科の先生
方やご後援をいただきました
医学部医学科同窓会霜仁
会様にこの場をお借りし心
よりお礼申し上げます。

今後も一層充実した説明
会となるよう努力して参り
ますのでよろしくお願ひ申
上げます。

(医療人育成センター
スタッフ一同)



各診療科のブースでは、
各科の研究の特徴や研修教
育体制、専門医資格の取得
を含めたキャリアサポート
体制等について、指導医の
先生が分かりやすく丁寧に
説明され、様々な情報交換
があり、会場は至る所活気

山口大学医学部 第77回医学祭

2022年10月7日(金)・8日(土)・9日(日)

本年度テーマ

医家団樂

~Create one Circle~

3年ぶりとなる医学祭に学生一同尽力して参ります。

皆様のお越しを心よりお待ちしております。



教室紹介

神経生理学講座

(生理学第二)

当講座(旧生理学第二)

は昭和31年に開講され、当初は生理学第一の井上章教授が兼任しましたが、川端五郎助教授が昭和33年に教授に就任され、心筋平滑筋の電気生理学的性質について研究を行いました。昭和47年には村上恵教授が着任されました。視床下部における温度受容細胞の局在と性質を明らかにし、退官後は山口大学学長としても大活躍に貢献されました。平成5年には、第4代教授として中村彰治教授が就任され、妊娠中のストレスが胎児脳の発達と生後の学習行動に及ぼす影響などを明らかに致しました。

教室では、シナプス可塑性と学習との関係について研究しております。海馬など特定の神経線維は高頻度で電気刺激されると、興奮性シナプスが強化・維持されます (Bliss & Lomo, 1973)。長年、long-term potentiation (LTP) 現象は学習のモデルと見なされてきましたが、実際の学習変化については不明な点が多く、当講座の研究で、様々な重要知見を得る事ができました。

運動学習については、動物にローター上を走らせるタスクを使って研究を進めました。従来、一次運動野のLTP発生にはGABA_A受容体阻害薬が必要である事が知られていましたが、その根拠は不明でした。精査しましたところ、運動学習による自発性のGABA脱抑制を発見し、続いて細胞特異的な興奮性シナプスの強化が見られました (Kida et al., *Cerebral Cortex* 2016)。さらに運動野V層には、錐

体路系の起点となる脊髄投射細胞と錐体外路系の基底核投射細胞が存在しますの、現在では出力特異的なシナプス可塑性まで明らかにしております。

形態的にはTbv-LYFP α ウスの脳硬膜上に直径4mmのガラス窓を作り、多光子顕微鏡を使って生体内を観察しております。スパインを3日間以上安定して観察しますと、個々のスパイン体積や変化は多様ですが、運動学習は不安定なスパインをリクルートして30分以内にスパイン体積を急性的に増加させ、2週間以上維持させる事が判明しました。また、スパイン多様性のエントロピー解析の結果、運動野V層ニューロン群の拡大情報量も推計できました (Kida et al., *under revision* 2022)。

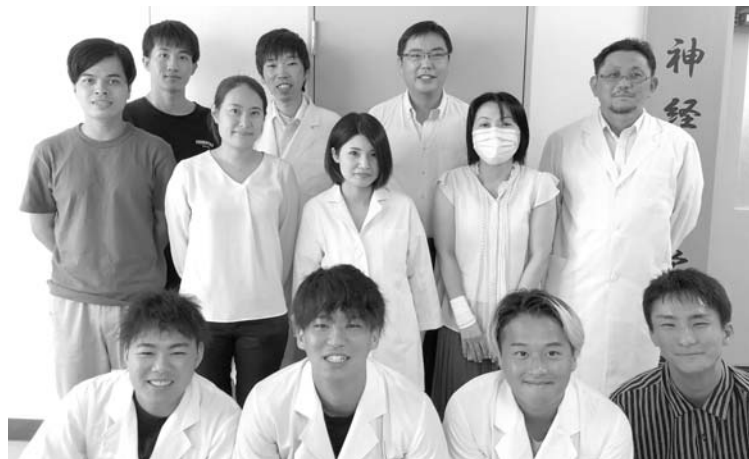
海馬学習ではCA1領域に着目し、特定のエピソードを学習させる回避学習課題を行ってきました。CA1シナプスの強化と学習成立の因果関係は着任前に明らかにしておりましたが (Mitsushima et al., *PNAS* 2011)、興奮性シナプスだけでなくGABA_A受容体を介する抑制性シナプスも多様に強化される事を発見し、学習によるシナプス多様化を初めて報告しました (Mitsushima et al., *Nature Commun* 2013)。また、CA1シナプスの多様化をもたらすAMPA受容体 GluA1 subunitのリン酸化サイトを精査し (Hosokawa et al., *Neuron* 2015)、シナプス多様化は学習5分以内に見られる事も判明しました (Sakimoto et al., *FASEB J* 2019)。さらにこの強化は、ポストシナプスにおけるAMPA受容体やGABA_A受容体のチャネル分子数増加に起因する事も示しました (Sakimoto et al., *Cerebral Cortex* 2019)。

海馬内に記憶情報が符号化されていると考えられておりますが、情報処理の本態は未だ不明です。そこで動物に様々なエピソードを経験させ、経験前後のCA1ニューロン群における自発発火活動を記録してみました。すると情動性の強いエピソード経験中と直後に、経験前の発火頻度の+3SD (標準誤差の3倍) を超える、自発性の高頻度発火活動 (super burst) を捉える事に初めて成功し、続いて興奮と抑制のフェーズを繰り返しながら多様なリップル発火が何百何千と発生する、情報処理のプロセスが見えてきました (Ishikawa et al., *BioRxiv* 2019)。興味深い事にsuper burst群やリップル発火群は、豊かな多様性を持ちエントロピー (bit) が高く、様々な特徴分布が直前に経験したエピソードに特異的である事も突き止めました。進歩の著しいAI技術を活用し理学部情報科学の西井先生、国際総合科学部の村井先生、工学部の陶先生、日本工業大学の呉本先生、香川大学の藤本先生にご協力を仰ぎ、超えた共同研究が実りつつあります。

教育面では平成28年から事務委員長を2期務め、国際認証に向けた行動科学の充実、Native English教員によるAll English授業などを実現して参りました。授業は内分泌系や神経系の講義と実習を担当し、生命医科学チュートリ

アルというactive learning形式の授業も行っております。また、3年の自己開発コースでは、医学生と共にAmyloid β オリゴマーの様々な新規有害作用を抽出し、薬物を使った有害作用の除去を進める事ができました。今後も、大学独自の研究活動プログラムを生かして、research mind育成に力を入れて参りますので、ご指導・ご鞭撻を賜れますら幸いです。

(美津島 大)



病院紹介

山口県済生会豊浦病院



院長 中司 謙二 先生



方々にご出席いただき、新築落成祝賀会を挙行しました。

新病院は、許可病床275床（うち開放病床15床）のケアミックス型の病院です。急性期一般病床144床、地域包括ケア病床45床、療養病床86床からなります。ポストアキュートやサブアキュート、レスパイト入院といった在宅復帰の後方支援に注力するため、旧病院では31床だった地域包括ケア病床を新病院では45床へ増床しました。病診連携と在宅復帰をスムーズに進めるためPFM (Patient Flow Management)

という部署を立ち上げました。標榜診療科は、18診療科、内科・神経・心療・呼吸器・消化器・循環器・小児・外科・整形・脳外・皮膚・泌尿器・産婦・眼・耳鼻・リハ・放射線・麻酔からなります。嘱託を含む常勤医は18名で、内科（一般、循環器、消化器）と療養内科あわせて8名、泌尿器科4名、外科、整形、脳外、産婦、小児、麻酔が各1名ずつで、一人科が多い病院です。不足した機能を山口大学から多くの非常勤医師を派遣いただき補っております。救急告知病院として、365日1次・2次救急を受け入れているため、医師負担軽減のため日当直の約半分は山大医師のお世話になっております。当院は、山口大学協力量型臨床研修施設に指定され、山口大学卒後専門研修においては、外科、産婦人科、泌尿器科、小児科、脳神経外科等で研修施設に登録されており、初期臨床研修では、長く1か月間の地域医療研修を引き受けてきましたが、200床以上の病院が対象外になったため受け入れができなくなり、今年度秋に、山口県修学資金貸与を受けている山大医学部1年生の病院見学引き受け病院となったため、地域医療の魅力をお伝えしようと楽しみにしております。

新病院開設後も、下関市北浦地区の中核病院として地域医療に努めてまいりましたが、へき地病院の深刻な課題である医師不足問題に直面しており、新型コロナの影響も加わり、経営は厳しい状況にあります。そうした中、令和2年には経営改善提案を元に、院内初の試みとなる「Q&A活動」を行い職員に対して経営改善の良い意識付けとなりました。

この度は霜仁会会報に病院紹介をさせていただく機会を頂きました。誠にありがとうございます。霜仁会の先生方には、いつも大変お世話になっております。また山口大学医学部各講座から多くの医師派遣をいただいております。厚く御礼申し上げます。

関市街にある国立下関病院との統合が決まり、旧国立山口病院が豊浦町に経営委託し、管理・運営を山口県済生会が受託したことで、山口県済生会豊浦町立病院として開設したことが始まりです。平成17年4月には1市4町の広域合併に伴い病院名も「下関市立豊浦病院」に改称。下関市の指定管理の下、山口県済生会が業務代行型指定管理者となりました。平成28年4月、3月、旧病院を取り壊した跡地に駐車場整備と外構工事の完了に伴い同年4月に、大学、医師会、行政を含む多数のお世話になった

当院の沿革は、昭和19年6月、広島陸軍第一病院小串転地療養所として当地に開設されて以来、国立療養所を経て国立山口病院となり、当地域に唯一の総合病院として運営されておりましたが、平成12年7月、下

関市より譲渡を受け指定管理から独立。公設民営の病院から、済生会独自の運営組織となるに伴い、病院

今後とも引き続きご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



イノベーションに情熱を。
ひとに思いやりを。



Daiichi-Sankyo



TERUMO

約 W78 × D40 × H19 mm

えっ！これがポンプ？

日本初。チューブフリーのパッチ式インスリンポンプ。

MEDISAFE WITH

一般的名称：ボータブインスリン用輸液ポンプ 販売名：メディセーフウィズ 医療機器承認番号 2290082X00374

テルモ株式会社 〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷2-4-1 www.terumo.co.jp

登録されている社名、各種名称は、テルモ株式会社および各社の商標または登録商標です。
©テルモ株式会社 2020年7月



ANA CROWNE PLAZA
AN IHG® HOTEL
UBE

ANAクラウンプラザホテル宇部
〒755-8588 山口県宇部市相生町 8-1 Tel:0836-32-1112(代)

医療関連事業
疾病の診断から治療までを担う

ニュートラシューティカルズ関連事業
日々の健康維持・増進をサポートする

両輪で身体全体を考える

世界の人々の健康に貢献する
トータルヘルスケアカンパニーを目指します。

Otsuka-people creating new products
for better health worldwide

 Otsuka 大塚製薬

<https://www.otsuka.co.jp/>

医書のことなら全てお任せ下さい。

- 常時 10,000点の在庫。
- 便利な試覧制度と即日納品も可能なスピーディー宅配便。
- インターネットによる医学書の最新情報の提供と注文が可能。

《 日本医書出版協会認定 医学・看護学専門書店 》

井上書店

宇部店 〒755-8566 宇部市南小串2丁目3番1号
TEL (0836) 34-3424 FAX 34-3090
e-mail : ube @ mm-inoue.co.jp

小倉店 〒802-0077 北九州市小倉北区馬場2丁目1-20
TEL (093) 533-5005 FAX 533-9789
e-mail : kokura @ mm-inoue.co.jp

[ホームページアドレス]
<http://www.mm-inoue.co.jp>



**Better Health,
Brighter Future**

タケダから、世界中の人々へ。
より健やかに輝かしい明日を。

武田薬品工業株式会社
www.takeda.com/jp



山口大学医学部霜仁会の 会員総合補償制度

中途加入受付中！

中途加入の場合、毎月20日までにお申込みいただくと翌月の1日が補償の開始日となります。

団体割引※が適用されるため、**保険料が割安**です!!

※団体割引は毎年変動する可能性があります。
本チラシに記載の団体割引は、2022年4月1日～2023年4月1日までに保険始期のあるご契約に適用されます。



産業医等活動保険にもご加入できます！
(勤務医師賠償責任保険任意オプション)

地震や日常生活による**ケガ**・**携行品**・**賠償責任**を補償 **団体割引 5%**

傷害補償

- ◆国内外、24時間、事故によるケガを補償します。
(地震・噴火・これらによる津波によるケガも補償します。)
- ◆ケガ以外にも携行品の損壊など、様々なリスクを補償します。
- ◆年齢にかかわらず保険料は一律です。

会員総合補償制度のおかげで安心して医療に従事できます

万一の医療事故を補償

医師賠償責任保険 (勤務医向け)

団体割引 **20%**

働けなくなった時の**収入**を補償 **団体割引 10%**

所得補償

- ◆病気やケガで就業不能となった場合に、先生方の所得を補償します。
- ◆入院はもちろん、自宅療養もカバーできます。
- ◆ご加入の際、医師の診査はありません。(健康状態告知のみ)。

所得補償、団体長期障害所得補償
どちらも加入することをおすすめします。

万一の**がん**・**病気**・**ケガ**を補償

がん補償

- ◆がんと診断されたとき、診断保険金が支払われます。
- ◆入院保険金は1日目から何日でも補償されます。
- ◆手術保険金は何回でも補償されます。(手術の内容・種類によっては回数の制限があったり、お支払の対象とならない場合があります。)
- ◆ご加入の際、医師の診査はありません。(健康状態告知のみ)。

医療補償

- ◆病気だけでなくケガによる入院も補償されます。
- ◆入院保険金は入院1日目から補償されます。(限度日数あり)。
- ◆ご加入の際、医師の診査はありません。(健康状態告知のみ)。



長期間働けなくなった時の**収入**を補償 **団体割引 10%**

団体長期障害所得補償

- ◆病気やケガで就業障害となった場合に、先生方の所得を補償します。
- ◆長期にわたり(最長5年)生活費をお届けします。
- ◆ご加入の際、医師の診査はありません。(健康状態告知のみ)。

突然**介護**が必要になった時に**保険金**をお支払 **団体割引 10%**

介護補償

- ◆公的介護保険制度に基づく要介護2以上の認定を受けた場合
- ◆東京海上日動所定の要介護状態(要介護2用)と診断されその状態が90日を超えて継続した場合
いずれかの場合、保険金(一時金)をお支払いします。

詳細はパンフレットをご覧ください。この広告は医師賠償責任保険、産業医等活動保険、団体生活総合保険の概要についてご紹介したものです。
詳細は契約者である団体の代表者の方にお渡しする保険約款および協定書によります。ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。尚、ご不明な点等がある場合には、取扱代理店までお問い合わせください。

申込書類・資料のご請求やお問い合わせはお電話もしくはメールで下記取扱代理店までお願い致します。

<p>お問合せ先・取扱代理店</p> <p>株式会社パイオニア (平日)午前9時～午後5時 〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 4-4-16 小泉第2ビル 3階 TEL : 0120-010-938 FAX : 0120-921-051 http://www.pioneerltd.com yamada@pioneerltd.com</p>	<p>引受保険会社</p> <p>東京海上日動火災保険株式会社 (担当部) 医療・福祉法人部 東京都千代田区三番町6-4 〒102-8014 TEL : 03-3515-4143 www.tokiomarine-nichido.co.jp 募集文書番号 : 21-TC10056 2022年2月作成</p>
--	--



いついかなる時も、いちばんそばに。

To Be a Good Company



東京海上日動

印刷を企画から在庫管理・発送まで

一括サポート!

まずはお気軽にご相談ください。

瞬報社オフリン印刷株式会社

【本社】〒754-0002 山口県山口市小郡下郷2410番地

TEL 083-972-5678 FAX 083-973-1912

【営業所】広島・下関物流センター

Hisamitsu

経皮鎮痛消炎剤

[薬価基準収載]

モーラス®パップXR120mg

MOHRUS®PAP XR120mg

ケトプロフェン2%

[薬価基準収載]

モーラス®パップXR240mg

MOHRUS®PAP XR240mg

ケトプロフェン2%

●「効能・効果」、「用法・用量」、「効能・効果に関連する使用上の注意」、「禁忌を含む使用上の注意」等については添付文書をご参照ください。

製造販売元  久光製薬株式会社

〒841-0017 鳥栖市田代大官町408番地

資料請求先：お客様相談室 〒100-6330 東京都千代田区丸の内二丁目4番1号

フリーダイヤル 0120-381332 FAX.(03)5293-1723

受付時間/9:00-17:50(土日・祝日・会社休日を除く)

2021年6月作成

ご結婚・ご宿泊・会議・会食に

国際ホテル宇部

 0120-375931

山口県宇部市島1丁目7-1

<http://www.kokusaihotel-ube.co.jp>

まだないくすりを
創るしごと。

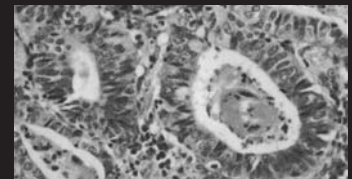
明日は変えられる。



アステラス製薬株式会社

www.astellas.com/jp/

病理組織・細胞診検査 動物実験研究用病理標本作製



検査項目

- 細胞診：婦人科
- 細胞診：一般(呼吸器・泌尿器・体腔液・その他)
- 病理組織診断：各種臓器の病理組織検査
特殊染色(免疫染色法を含む)
ER、PgR、HER2染色法
- 研究用病理組織標本作製 ※詳細は検査案内書参照

結果報告

- 受け取りから結果報告まで
細胞診：2～3日
病理組織診断：3～4日
(脱灰脱脂や特殊染色が必要な場合は
多少時間がかかります)
※お急ぎの場合はその都度対応いたします

組織・細胞診検査の集配業務行っております。

各種依頼用紙、試料瓶などはご一報頂ければお届けします。
新規の医療機関でもお電話頂ければすぐに伺います。

※詳細は検査案内書を参照してください。検査料金は当センターの検査料金規定によります。

(社)霜仁会検査センター

〒755-0046 宇部市南小串1丁目2-11 霜仁会医学交流会館2F

TEL 0836-31-7510 FAX 0836-31-7590

ニューフェイス

卒後臨床研修体験談

山口大学医学部附属病院 脳神経内科

山本史佳

初期臨床研修を終えて

山口大学大学院医学系研究科
呼吸器・感染症内科学講座

渡邊倫哉

サッカー部

中国・四国大会優勝報告

医学科 四年 西 寫 俊 佑

ジエネシス



この度6月25日、26日に常磐スポーツ広場で行われた中国・四国医科学学生交流大会にて優勝したことをこの場をお借りしましてご報告致します。

私は山口大学を卒業後、山口大学医学部附属病院で初期研修をさせていただきました。もともと内科志望でありましたので、全方向自由型コースで研修を開始し、山口大学医学部附属病院だけでなく山口労災病院、宇部興産中央病院でも研修をさせていただきました。大学病院でしかみられない重症疾患や治療・診断に難渋するような症例と市中病院での common disease との両方を勉強することができ非常に勉強になりました。また、市中病院での二次救急の救急外来で初診・アセスメント・治療計画をたてることは最初のころは不安が多く、慣れないこともたくさんありましたが、指導医の先生方の熱心な指導によりいろんな経験ができて成長することができたと感じています。



私は初期研修を始めた時には進路を決められていなかったのですが、大学病院

で脳神経内科を研修した際に、論理的な思考で診断していくプロセスや、近年治療研究が進んでいる神経難病を診療することに魅力を感じ、入局を決めました。今年度より山口大学脳神経内科で診療助教として診療をさせていただきます。今後も山口県の医療に貢献できるように研鑽をつんでいきたいと思っています。
山口労災病院
https://yanaguchihjohas.go.jp
宇部興産中央病院
https://www.ube-hp.or.jp

私は令和2年に山口大学医学部を卒業後、済生会下関総合病院(以下、下済)で2年間の初期臨床研修を行いました。日々の研修は驚きと発見に満ちていて、軽症例も重症例まで多くの症例を経験する中で、迅速な対応が必要な症例かどうかの判断力や直感力が肌につきま

した。思い返してみると、疾患理解や治療方法の勉強も非常に重要ですが、実際に問診・診察する中で得られる経験が、研修医時代に最も身につけるべき素因の一つだと感じました。下済は研修医の人数こそ多くありませんが、経験豊富で優しい指導医の指導をマンツーマンで受けることができ、多くの手技を経験することが出来ます。私は日々の研修や救急外来を通じて、血液ガス分析や静脈路確保、血液培養などの基本点な処置以外にも、縫合を含む簡単な創傷処置、ギプス固定、胸腔穿刺、胸腔



前列向かって右が渡邊

呼吸器内科の指導医のおかげで、呼吸器内科に入局することを決心しました。そんな私は初期研修時代の呼吸器疾患は腰をすえた治療が必要な診療科ですが、一歩ずつ Step up できるように日々研鑽して参りたいと思います。
済生会下関総合病院
https://www.simo.saiseikai.or.jp



今年度は新型コロナウイルスの影響により西医

この度の新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、制限のある部活動の中で最高の成果を出せたことは喜びに堪えません。本大会では優勝のみならず MVP に決勝での PK 戦で見事にゴールを守り、勝利に貢献した戸坂泰平君をはじめ、選手賞にチームのエースでもある吉行謙先輩や村田滉祐君が選ばれるなど多くの名プレイヤーも生まれました。今年度は新型コロナウイルスの影響により西医

体が直前で中止となり、一番の目標を失ってしまうと

また本大会は約20年ぶりに山口大学が主管となり行われましたが、当初はコロナ禍の影響により一昨年前からの2大会が中止になるなど、一時は本年の大会も開催が危ぶまれる事態となりました。しかし春先の感染者数の減少やワクチンの普及に伴い、規模を縮小した上で感染対策を徹底することにより開催が実現しました。大会が無事盛会の内に終えることができたのは大会実行委員長の大役を務

バレーボール部

九州・山口大会優勝報告

医学科 四年 **張本毅**



この度6月25日に行われました、九州・山口医科学生体育大会で山口大学医学部男子バレーボール部が優勝したことをこの場を借りてご報告いたします。代替試合という名目ではありましたが、3年ぶりに参加できた医科学生大会で優勝できたことを嬉しく思

めた木村綾佑君や多くの部員とマネージャー、そして親身になって対応して頂いた大学の関係者の皆様のおかげであると深く感謝しています。最後になりましたがいつもサッカードを応援して下さい。顧問の池田栄二先生、後援会会長の徳久善弘先生をはじめ、多くの先生方と保護者の皆様に厚く御礼申し上げます。これからも山口大学医学部サッカード部をよろしく願います。



医学祭に向けて

医学科 四年 **泉本真志**



山口大学医学祭は本年度で77回目を迎えます。新型コロナウイルスの影響により2回の中止があった中、山口大学は附属病院の病棟を新しく開設し、最新の機械も導入するなど、次の時代にに向けて着実に歩みを進めております。その歩みの

中で伝統ある山口大学医学祭の歴史を引き継ぐことの責任を感じると同時に、実行委員長という大役に任命して頂いたことを大変光栄に思います。医学祭では、医学部の学生全員が各パートに所属し、医学祭を作り上げて参ります。3年ぶりの開催で医学祭を経験していない下級生ばかりですが、各々が医学祭をより良いものになりたいと思い、試行錯誤することにより、医学祭が必ず成功に終わると確信しています。そして他の学生と協力してひとつのものを作り上げるという経験は、将来医療従事者として働く我々医学生にとって、大変有意義なものとなるでしょう。また地域の方々、山口大学職員の方々のお力添えを頂きながら、医学生が主体となって企画・運営して参ります。部活動単位で出店する模擬店やステージ企画、ビンゴ大会の他、豪華なゲストをお招きしてのアーティストライブやお笑いライブなどもあり、毎年多くの地域の方々に参加して頂いております。他にも医学祭という名前の通り、エイズカフェやドクターヘリ見学といった、学生による企画も用意しておりますので皆様のご参加を心よりお待ちしております。

さて中止が続いた2年間という期間は、私たち大学生のみならず中高校生にとっても修学旅行、卒業式など生涯の思い出に残るイベントも無くなったと耳にすることも多く、学生にとつて当たり前の日常が制限された我慢の時期であったと思います。この様な中で開催される本医学祭が、これまで開催を切望してきた学生、O.Dの先生方にとつても今の情勢が好転していくという様な希望を与えられる医学祭となるよう一生懸命運営してまいります。今年度の医学祭は「医家団欒(Create one circle)」というテーマを掲げております。山口大学医学部をひとつの家族になぞらえて学生から卒業生が一堂に集う機会であることをアピールする他、医学会などの同時開催など新たな取り組みも行われることから縦のつながり、横のつながり、そして専攻を超えた医療の輪を広げたいという願いを込めて決定しました。本医学祭では感染対策に細心の注意を払いながら運営してまいります。山大学生

はじめご来場の皆様には楽しいひと時を過ごしてもらいたいと思っております。皆様にとつても実りある医学祭となるよう、ご来場される皆様におかれましてもご協力の程、何卒よろしくお願ひします。また第77回医学祭は、過年度より1か月早い10月8、9日に行われます。その他にも様々なイレギュラーな事もあるとは思われますが、過去の医学祭同様に笑顔の絶えない医学祭になるよう精進いたします。本年度も山口大学医学祭を何卒よろしくお願ひ致します。

クラブ紹介

陸上競技部

医学科 三年

梶川 佑



現在、山口大学医学部の主将を務めさせていただいております。医学科3年の梶川 佑です。

私たちは現在、選手が6年生3名、5年生6名、4

年生8名、3年生6名、2年生16名、1年生13名、マネージャーが5年生1名、4年生1名、3年生2名、2年生1名、1年生3名の計60人という大所帯で活動しています。

練習は基本的には水曜日、土曜日の週に2回で、宇部市の恩田陸上競技場もしくは山口市の維新公園補助陸上競技場で行っています。大会の直前などは練習を月曜日、水曜日、土曜日の週3回に増やし、山口市の維新公園補助陸上競技場での練習を積極的に取り入れるなどしています。練習内容は、怪我予防のための全員での軽いジョグ、体操の後、短距離パート・長距離パート・フィールドパートに分かれて、専門の練習を行っております。短距離パート・長距離パートでは各々が体力の尽くす限り自分を追い込み、フィールドパートでは技術の向上を目指して黙々と日々練習をこなしています。また、練習中に先輩が後輩へアドバイスをしたり、練習の合間には部員同士が自身の学校生活について語り合うなどアットホームな雰囲気です。

練習以外の活動も充実しています。新型コロナウイルスの影響で近年は思うように行うことができいてませんが、例年では、6月に春の新歓コンパ、7月に角島レク、10月に秋の新歓コンパ、12月に忘年会、1月に追い出しコンパを行っています。角島レクでは学年関係なくみんなでバーベキューや海水浴を楽しみます。新歓コンパや追い出しコンパでは顧問の先生を始め、多くのOBの先生方に来ていただいています。

大会につきましては、例年、4月には九州山口医科学生体育大会、8月には西日本医科学生総合体育大会ならびに全日本医歯薬獣医学対抗陸上選手権大会、11月には下関海峡マラソン、12月には阿知須駅伝、2月には宇部駅伝に参加しています。新型コロナウイルスの影響で今年度も九州山口医科学生体育大会、西日本医科学生総合体育大会は中止になってしまいました。3年生以下は入学以来この2つの大会に出場したことがなく、今

年度の中止という結果になってしまっても残念でした。来年こそは出場できることを信じて、またそれ以外の大会は開催されると信じて、これからも地道に一生懸命練習を続け、OB・Oの先輩方に良い報告ができるように頑張っています。

うと思っています。最後になりましたが、いつも私たちのことを気にかけて、ご指導、ご支援していただいているOB・Oの先生方には部員一同深く感謝しております。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



編集後記

米国では住宅固定金利が6%超まで上昇、8%の物価上昇を記録しています。世界的なインフレ圧力がいざい日本にもやってきました。今、今の日本にインフレ率にに応じて診療報酬を上げる体力があるのでしょいか。変化に対応していくことが逆境を切り抜けるコツだと信じています。

(永井智彦)

訃報

- 津永甲次先生(昭25年卒) 令和4年2月26日逝去
 - 橋爪 章先生(昭55年卒) 令和4年4月20日逝去
 - 小川 博先生(昭30年卒) 令和4年4月25日逝去
 - 馬場達二先生(昭38年卒) 令和4年5月1日逝去
 - 田島佐一郎先生(平2年卒) 令和4年6月29日逝去
 - 宮原妙子先生(昭54年卒) 令和4年7月15日逝去
 - 下野勝俊先生(昭25年卒) 令和4年8月9日逝去
 - 林田重昭先生(昭45年卒) 令和4年8月9日逝去
 - 高橋陽二郎先生(昭50年卒) 令和4年8月16日逝去
 - 小川 温先生(昭33年卒) 令和4年8月22日逝去
- ご冥福をお祈りいたします。